

霊園の史的研究—都立霊園を中心に—

Historical study of the cemetery —focusing on the Tokyo metropolitan cemetery—

学籍番号：201721697

氏名：三末 千尋

Misue Chihiro

1923年に日本初の「霊園」がつくられ、それからまもなく100年が経とうとしているが、これまでの研究では、霊園の全体像が明らかにされておらず、俯瞰的な研究がなされていない。本研究では、日本初の霊園である多磨霊園をその一つに含む、都立霊園全体の変遷を明らかにすることを目的とする。研究方法は、文献調査と都立霊園全8ヶ所へのフィールドワークである。調査対象とした文献は、東京都などが発行する公的資料、新聞、雑誌記事である。

都立霊園とその前身である共葬墓地の歴史を調査した結果、初めから霊園として整備されたものと、そうでなかった墓地があることが明らかになった。

現在の東京23区に位置する、当初は神葬祭地あるいは共葬墓地として整備された墓地の一部は、順次別の墓地へ改葬され、廃止された。その一方で、大正以降に、東京23区外に、それまでの墓地に対する暗い印象を、明るいものへと印象を改善する目的で作られた霊園には、廃止された墓地に埋葬されていた遺骨の一部が改葬されている。第二次世界大戦後は、東京23区内にある墓地のうち、戦前に廃止されなかった青山、谷中、染井、雑司ヶ谷霊園が全面公園化のため再貸付停止となる。初めから霊園として整備された東京郊外の墓地に対する廃止案、移転案は出なかったものの、東京23区内に位置する、又はかつて位置した墓地はいずれも廃止、あるいは廃止、移転案が持ち上がっているという共通点があった。市街地の墓地を郊外へと改葬していった結果、現在の都立霊園になった。

霊園という巨大な墓地施設が今後も郊外へ作られていく可能性は低い。しかし、霊園が果たした墓地全体の印象改善、「霊園の考え方」は、今後の墓地行政にも生かすことができるのではないかと考える。

研究指導教員：綿抜 豊昭

副研究指導教員：白井 哲哉